

山村再生プロジェクトによる長和っ子農大生の育成

～ 地域再生・活性化プランナーを目指して～

長和町役場 産業振興課

1. 山村再生プロジェクトとは

山村再生プロジェクトとは、東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科の学生たちが、長和町全体を1つのフィールドとして、地域住民と協働し交流を深めながら、多彩なカテゴリーに合わせて実習を展開するプロジェクトです。また、学生自らが山村地域に存在する様々な問題を主体的に把握し、解決策を考え実践し、成果を検証・分析して再び実践するといったことを地域に学びながら「自己実現の喜び」を養うとともに自らの行動を社会に還元できるといった地域再生・活性化の総合プランナーを目指したプロジェクトです。

平成20年度からスタートしました同プロジェクトは、毎月1回～2回行われ、1回の実習で4日～7日間学生たちは滞在し、年間延べ人数として約2,000名の学生たちが長和町を訪れます。

実習の主軸となる遊休荒廃地の再生・活用では、「ゼロからのものづくり」として、原野化した農地を学生たち自らの手で再生させました。今では年間約50種類以上の野菜や水稲を作付けし、その収穫物を活用した「味噌作り」や

「漬物作り」など地域食文化も学んでいます。また、同圃場では和紙の原料である「楮」も植え付けし、収穫や皮むきなど伝統文化である地場産業の「立岩和紙」の一役も担っています。

実習を通じて、学生目線から感じたことや気づいたこと、アイデアなどを話し合いながら課題や提案を発表する地域再生プランニングも行っており、その課題や提案を題材として町理事者及び議会などと意見交換会も行っています。

このような課題や提案を広く住民の皆様にも知っていただく！と「のうだい日記」として町広報に掲載しており、今回ご紹介させていただくこととなりました。ご一読頂けると幸いです。

～山村再生プロジェクト～





長和っ子農大生の紹介



尾田 明子さん

国際食料情報学部
食料環境経済学科 1年

実習の度に長和町の新しい魅力を発見できて、毎回行くのが楽しみです。
今年も、長和町で色々なことにチャレンジしていきます。



大見 亜友さん

国際食料情報学部
食料環境経済学科 1年

長和町大好きです！実習に行くたび好きになります。
実習でお世話になった方々は皆さん人情味あふれる素敵な方達で、毎回どんな方に会えるのか楽しみにしています！



根岸 奈央人さん

国際食料情報学部
食料環境経済学科 1年

長和町に実習に来はじめて早い1年になります。
長和では、大学では学べないことを数多く学ばせていただいています。まだ至らぬところがたくさんあるので、吸収できるものはたくさん吸収していきたいと思います。

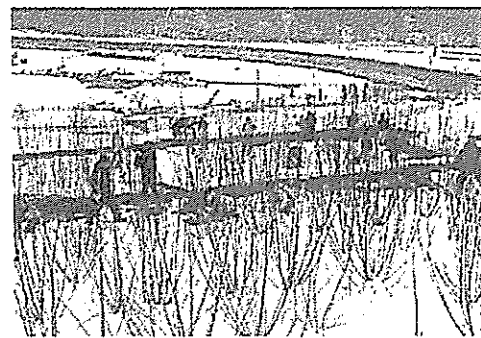
今回「うたい日記」を担当します
食料環境経済学科1年の鈴木基弘
です。よろしくお願ひします。

2月実習で学んだ伝統文化・食文化の中から、主に「立岩和紙と楮、紙布織や千切り絵」について書きます。

風土を活かした 農閑期の営みと知恵

昔から全国各地で地場産業が発展し営まれ、その技術が継承されています。長野県では和紙製造が有名で、北信地方の「内山紙・山中紙」などありますが、ここ長和町の「立岩和紙」もその一つです。長くて厳しい農閑期の副業として、依田川流域を中心に製造され、守り継がれています。私たちは、その一役を担えればと、平成21年と22年の春に、芹沢の実習圃場約500㎡に楮を植え、毎年2月に収穫と皮剥きを行っています。

今回実習した「紙布織」や「千切り絵」も和紙の強度や質感を利用した伝統文化です。農閑期と風土を活かした知恵と営み、古きよき時代かなと感慨深いものを感じました。

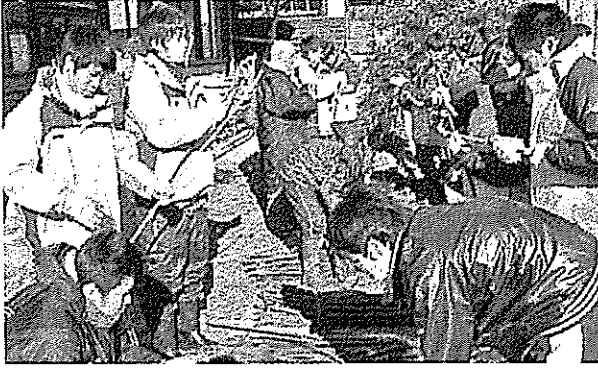


長久保芹沢地区のほ場での楮収穫作業の様子

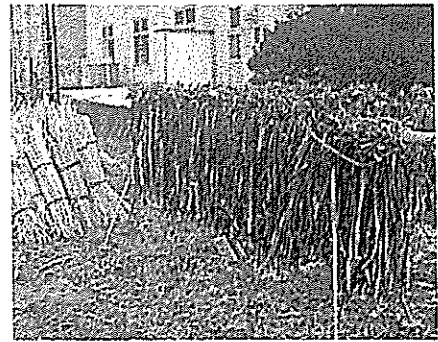
楮の性質と 実習での謎！

楮収穫に圃場着くと「寒い？いや痛い!!」覚悟していたとはいえず、

楮の皮むき作業の様子



この極寒は凍みました。太くて大きくなくなった楮を見て「これだけあれば、和紙の原料(楮の皮部分)にある繊維質)も沢山採れるだろう」と期待が膨らみました。
立岩和紙保存会の皆さんに蒸していた後、いざ皮剥き!」あれ、皮が剥けない!」簡単にツルリと剥けるはずの皮が剥けないのです!立岩和紙保存会の森田勝之助さん(古町道上区)も「初めてだ!!



はぜに掛けられた楮の皮

何でだろう?」と。そう言えば、今年の野菜の発育もおかしかったことに気づき、地球上の磁波の問題なのか何なのか調査研究する必要があると思いました。苦勞しながらも8割は剥けたので、この後乾燥させるためには、せ掛けをしました。
和紙の原料となる楮の繊維は1cm前後あり、雁皮・三極など他の原料より太く長いので頑丈な紙が作れることから「袴」などの衣類(紙布織)や水墨画用紙、写経用紙などに使用されていたことも学びました。

地場産業特産品としての再出発を願う!

立岩和紙保存会の藤田豊蔵さん(古町沖区)から「立岩和紙の漉き手は、今いる佐藤洋一さん(大門新屋区)しかない。紙漉きはすぐ出来るものではなく長年の修練が必要。今後の後継者育成と町の特産品としての再出発を強く願う」との話を聞き、切実な問題だと強く感じました。



藤田豊蔵さんによる紙漉きの実演

また、「千切り絵」の中澤君子さん(古町窪区)と「紙布織」の勝見幸枝さん(古町道上区)にも伝統文化や技術継承についてお話を聞いた中で痛感したことは、やはり後継者問題と町の特産品としての再出発を強く願っているということでした。

江戸時代から約300年以上の歴史をもつ立岩和紙。最盛期には立岩地区だけでも60戸が副業として営んでいた地場産業で、当時県下の検品で優秀賞を受賞したほどの上品質紙として有名だったそうです。



紙布織の作品

今の私たちに できること！

今回「のうだい日記No.9」を担当
します食料環境経済学科2年の柳屋
遊生です。よろしくお願ひします！

1月実習では、伝統行事や食文化
について学びましたが、主に「おたや
祭」について書きます。

先人たちの年始め に対する想い…

お正月には、様々な伝統行事やそ
れにまつわる食文化が全国どの地
域にも点在しています。そのほとん
どが貴重な歴史・伝統文化の財産と
して、地域住民の方々などにより引
継がれ、守られてきています。

今回実習した「おたや祭(山車)」
や「どんと焼きの蘭玉」、「やしよ
ま」もその中の一つです。どれも今
年1年間の五穀豊穡と無病息災を
祈り、古きより伝えられてきた文化
で、先人たちの年始めに対するいろ
んな想いを感じました。



動かない「山車」!?

私がビックリ!?させられたのは
「おたや祭」の5場所に奉納されて
いる「山車」です。一般的には屋台式
の山車を引き歩く京都の「山鉾」や飛
騨高山の「高山祭り」がありますが、
ここは動かないんです！
「これはすごく貴重価値のある農民
美術であり伝統文化だ!!」と感じま

した。

1828年の記録には「おたや
祭」が盛大なお祭りだったことが記
されていることから、かなり古くか
らあるみたいです。江戸初期ごろか
な？

おたやの山車 だけは守りたい

お祭りが終わった翌日の16日、山
車の片付けに参加させていただき
ました。

釘などで出来ているかと思ってい
たら、荒縄や古着といった材料を巧
みに組み合わせて出来ていて、また
またビックリです!!「年々山車に係
る人が高齢化になり、あと何年もつ
かわからない。でも、このおたやの
山車だけは守りたい。守らなければ
いけない」と製作者である地元のお
じさんが話してくれました。

昭和38年に長野県の無形民俗文
化財に指定されているおたや祭の
「山車」。伝統文化を守ろうとする地
元の方の熱意を強く感じました。

課題と提案

長久保の「大山獅子」も同様に山
村地域の伝統行事・文化の維持には、
後継者育成が一番の課題ですが、サ
ラリーマン社会という時代背景から
なかなか難しいかなとも考えます。
そこで、おたや祭に来た方がより
興味を持てるような提案をします。

① おたや祭り山車などぞなぞ

特設テナントで問題を出して、
その場で答えてもらう。正解した
先着20名の方に、やすらぎの湯無
料券配布。

② おたや祭り山車写真コンテスト

最優秀賞の方に、豊受大神宮の
大万度を贈呈。撮影者や山車のコ
メントも添えて、観光協会や病院
などへ1年間写真展を展示。

③ 山車づくり助っ人募集と

コーデイネータ募集・育成
町内に広く呼びかけて、山車づくり
を手伝ってくれる方を募集。また、お
たや祭りや山車のコーデイネータを
募集育成し、お祭りの時の案内人と
する。観光客の受入もできるとかも!

課題と提案

「素晴らしい技術と伝統文化が絶えてしまうのではないか?」といった後継者問題と町の特産化という切実な問題に直面した中で、農業と表裏一体の地場産業「立岩和紙」の存亡を問題視する必要があります。

また、基本的には住民主導型が良いですが、過疎化と高齢化が進む山村地域では、一部の関係者だけに任せておく旧来行政のやり方では難しく、新しい必要なのかなど。住民・関係団体・行政による「協働」の営みが早めに必要なと考えます。
そこで、後継者問題と特産化の再出発について提案します。

③ 町の名刺入り
《千切り絵和紙葉書》

不動滝や長門取の場などの観光スポットの名称を、ワンポイントの千切り絵を立岩和紙の葉書に入れることで、観光地・伝統文化それぞれをPRすることができます。

② 紙布織
キットの開発

紙布織を手軽に体験できるお試しセット(DVD等の手順書付き)を作り、紙布織の魅力を広く知ってもらおう。

① 紙漉きコンテスト ~ 立岩和紙
300年の歴史にページを刻もう ~

インターネット等により町内外問わず募集を行い、一大イベントとして紙漉きコンテストを行う。
その中から後継者の発掘と、コンテストで出されたアイデアをNEW立岩和紙として探求する。

2. 山村再生プロジェクトの今後の取り組み

今後は、今以上に学生主導型を高めるとともに、学生提案も研鑽する中で、産学官連携の取り組みや大学・高校の連携による協働プロジェクト、収穫物を販売するリヤカー市など大学・行政・地域といった連携を深めながら、地域への浸透性と融和性を図っていきたいと考えています。

山村地域だから何もないのではなく、山村地域だからこそ都会には失われたものがたくさんあります。地域再生・活性化を目指すためにも大学・行政・地域がひとつとなり目標に向かって進むことが大事だと考えます。

3. おわりに

今回、記事をご一読頂きまして、誠にありがとうございました。今後も学生主導で進めて参ります。長和町のホームページにも毎月掲載しております。また、「山村再生プロジェクトの軌跡」として、毎月実習の取り組みなどにつきましても掲載しておりますので、そちらもご覧いただきたいと存じます。

何かご質問などございましたら、お問合せいただければ幸いです。

本当にありがとうございました。

●お問い合わせ先

長和町役場和田庁舎 産業振興課 農政係
電話 0268-88-2345 (内線215)
FAX 0268-88-2693